

2024年7月12日

各位

会社名：住江織物株式会社
代表者名：取締役社長 永田 鉄平
コード番号：3501 東証プライム市場
問合せ先：常務取締役経営企画室部長
薄木 宏明
(TEL 06-6251-6803)

中長期経営目標後半3ヵ年の策定に関するお知らせ

当社は、2021年7月に発表した中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」に則り、その実現に向けて2025年5月期から2027年5月期を対象とする後半3ヵ年「SUMINOE GROUP WAY 2025～2027 STEP II」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 対象期間

2025年5月期～2027年5月期（3ヵ年）

2. 中長期経営目標の位置づけ

当社は、2021年7月、これまで当社グループが取り組んできたESG経営のもと、社会のニーズに応える商材の拡販とグローバル経営を推進し、グループ社員全員の力を合わせてこの先の未来も成長していくために、中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」を策定いたしました。

2022年5月期から2024年5月期を対象とした前半3ヵ年「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024 STEP I」では、未来を見据えた着実な種まきを進め、今回策定いたしました2025年5月期から2027年5月期を対象とする後半3ヵ年「SUMINOE GROUP WAY 2025～2027 STEP II」は、実力の底上げを確実に進める期間として位置づけております。

「SUMINOE GROUP WAY 2025～2027 STEP II」を推進することで、持続的な成長とさらなる企業価値向上を目指してまいります。

※ 中長期経営目標の詳細につきましては、添付資料をご覧ください。

以上

当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社の今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因で異なる場合がございます。

中長期経営目標

「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」

SGW STEP I (2022～2024) の振り返りとSGW STEP II (2025～2027) の方針



SUMINOE
GROUP

住江織物株式会社から **SUMINOE株式会社**へ

グローバル展開の加速、非繊維領域の拡充をすべく、2024年12月に商号を変更。変革の動きをさらに強めます。

※ 本商号変更は、2024年8月29日開催予定の第135期定時株主総会において、「定款の一部変更」が承認されることが条件となります。

- | | | |
|----|----------------------------------|------|
| 01 | 長期的ビジョンにおける中長期経営目標の役割 | P.02 |
| 02 | 中長期経営目標 STEP I の振り返り (2022~2024) | P.07 |
| 03 | 中長期経営目標 STEP II の方針 (2025~2027) | P.10 |
| 04 | 資本コストと株主還元 | P.20 |

01

長期的ビジョンにおける 中長期経営目標の役割

- ・ SUMINOE GROUPの変革
- ・ 中長期経営目標の全体像
- ・ 目指す未来と、そのための取り組み
- ・ 目指す未来を創造するために

当社グループは、1883年に大阪住吉の地に誕生して以来、インテリアのバイオニアメーカーとして、さまざまな繊維製品をお客様に提供し、時代のニーズに応えながら事業領域を拡大してまいりました。そして2024年、わたしたちは新たな転換点に突入します。

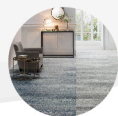
1883



日本の近代化に貢献



インテリアを一般家庭に



140年の歴史
住江織物株式会社

環境づくり・環境ケアを先駆けて

長年の実績を力に、
まだない未来創造に
転換していく。

CHANGE! 2024

- ・グローバル展開の加速
- ・非繊維領域の拡充
- ・SUMINOE ブランドの確立

あらゆる空間に、 イノベーションを。

時代や地球と調和する
「新しい快適のスタンダード」
を織りあげよるこび広がる
未来の暮らしをつくる。

目指す未来
2050

SUMINOE 株式会社

商号変更による
決意表明
変更予定日
2024年12月2日※

SUMINOE 株式会社
(SUMINOE Co., Ltd.)

中長期経営目標による
決意の具現化

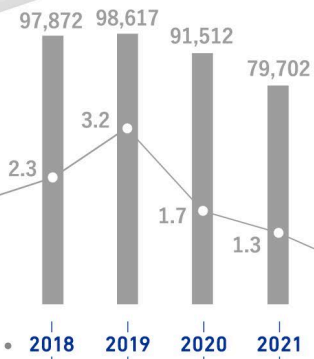
SGW SUMINOE GROUP WAY
2022~2024~2027

STEP I (2022~2024) → STEP II (2025~2027) の
2段階で、着実に未来への基盤づくりを目指します。

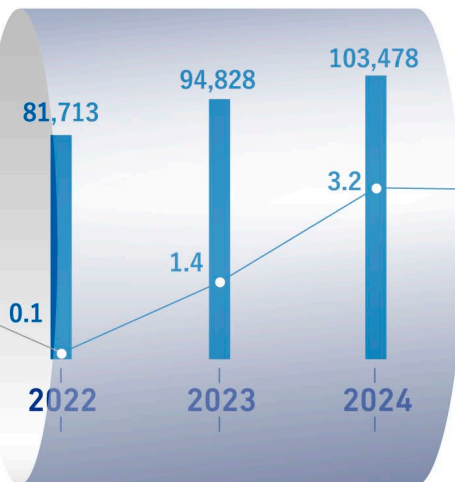
※ 本商号変更は、2024年8月29日開催予定の第135期定時株主総会において、「定款の一部変更」が承認されることが条件となります。

中長期経営目標の全体像

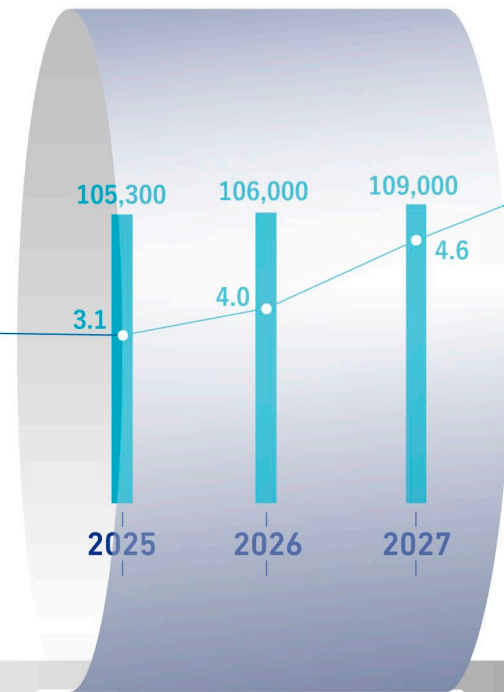
■ 売上高(百万円)
● 営業利益率(%)



未来を見据えた着実な「種まき」 SGW STEP I (2022~2024 3ヵ年)



実力の底上げを確実に進める SGW STEP II (2025~2027 3ヵ年)



あらゆる空間に、
イノベーションを。



2050

成長エンジン

国内事業 + グローバル事業 / 繊維事業 + 非繊維事業

Vision わたしたちの目指す未来

時代や地球と調和する
「新しい快適のスタンダード」
を織りあげよろこび広がる
未来のくらしをつくる。

これまで培ってきたコア技術をベースに、
そして空間の理想像を柔軟に描く創造力で、
社会を変える新たな価値を創造していきます。

わたしたちの取り組み

グローバル展開の加速

ラインアップの充実と人材育成を進め、製造・販売拠点を拡充。世界最適供給体制を強化します。



非繊維領域の拡充

繊維にとどまらない基盤となるコア技術を活かし、「あらゆる空間」への価値創造を行います。



SUMINOEブランドの確立

住江織物からSUMINOEへ。国内だけでも繊維だけでなく新たな企業像を世界で確立します。



3セグメントによる事業リスク分散と技術の横展開

基盤となる
コア技術

- 織・編製造技術
- コーティング技術
- 再生ポリエステル製糸技術
- ラミネート技術
- 機能付与技術
- 硬綿加工技術

市場ニーズに合わせて変化してきた力
伝統のブランド力

わたしたちが空間に貢献できる
イノベーションとは？
グループ全体でその想いを
ともにし、2022年から
「シン・ミライPROJECT」
を推進しています。



理念の共有・浸透

グループ全体で定期的に研修を実施し、グループ理念の浸透を図ります。



部門横断・共有

- 部門間コミュニケーション「ツナグ輪^ツーケーション」
- 社長・管理本部役員と年代別従業員との座談会「ツナグ座談会^{ミーティング}」

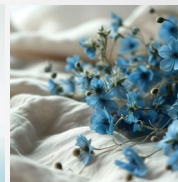


2050年バック キャスト プロジェクト

経営が指名した次世代を担うメンバーで複数のチームを結成。コア技術や異業種との共創を活かし、SUMINOE GROUPの可能性を広げます。



センサー・デジタルファブリックによるCUBE スマートハウス



植物を育てる布



繊維革命で、災害時に誰も取り残さない社会へ

02

中長期経営目標 STEP I の振り返り (2022~2024)

- ・ 中長期経営目標
- ・ 実績と今後の課題

未来に向けて着実に「変わる」ため、
中長期経営目標を策定しました。

SGW (SUMINOE GROUP WAY)

と名付けたこの計画は

2期・6年に及び、既に進行中です。

経営方針

- より良いビジネスモデルを構築し
社会が必要とする企業として
グローバルに成長する
- 健全な利益を上げ
次の成長への投資をする
- ESG 経営を強化する

売上拡大、 成長への基盤づくり

- 営業利益率5%以上
- コスト競争力の強化
- 成長の基盤づくりに
向けた投資計画
- オンリーワン商材の開発
- 環境対応型商材の開発と
販売促進
- 抗菌・抗ウイルス
加工商材の拡販

財務面

財務体質の改善

- DEレシオ改善
- 在庫回転率アップ
- 自己株式の活用
- 基幹システムによる
業務効率改善

社員の幸せに つながる職場づくり

- 健康に働ける職場環境づくり
- 人材育成
- 多様な人材の活用

非財務面

会社と社員の ビジョンの共有

- 企業ブランド価値の向上
- ガバナンスの強化

あらゆる空間に、 イノベーションを。

時代や地球と調和する
「新しい快適のスタンダード」
を織りあげよるこび広がる
未来の暮らしをつくる。

未来を見据えた 「種まき」を着実に実行

SGW STEP I の計画と実績 ▶ 売上高・営業利益は計画達成

	2024/5 計画	2024/5 実績		2024/5 計画	2024/5 実績
売上高 (百万円)	93,490	103,478	ROE (%)	6.6	2.9
営業利益 (百万円)	3,300	3,300	設備投資	10,000	10,953
営業利益率 (%)	3.5	3.2	(3ヵ年累計 ：百万円)		

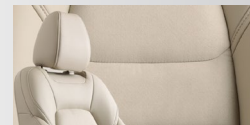
成果

- アメリカ・メキシコ両子会社の生産体制再構築で北中米拠点の黒字化を達成（自動車内装事業全ての海外拠点が黒字化）
 - 適切な価格転嫁の実施
 - 水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」のもつ高い環境性能の認知拡大
 - スペース デザイン ビジネスの拡大
-
- 合成皮革工場の設立による新たな展開への種まき
 - グローバルサプライヤーとして北中米市場での認知拡大に取り組み、外資系メーカーからの受注を獲得

今後の課題

自動車内装事業

- 事業横断による情報共有で提案力を強化
- 北中米拠点の経営基盤強化と収益拡大
- 外資系メーカーへの提案強化と新規商材の拡販



車両内装事業

- 生産体制の最適化・効率化による収益拡大
- 機能性商材の開発と拡販による販売拡大



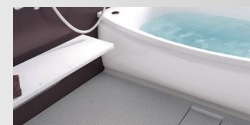
インテリア事業

- SUMINOE ブランドの認知拡大
- 家庭用商材の販売回復に向けた戦略の実行



機能資材事業

- 既存事業、既存製品カテゴリーからの拡大
- ベトナム拠点の人材と生産設備の有効活用



中長期経営目標 STEP IIの方針 (2025~2027)

- ・ 重点テーマ
- ・ 各事業の方針 > 自動車内装事業 > 車両内装事業 > インテリア事業 > 機能資材事業
- ・ 技術開発の方針
- ・ 3ヵ年連結収支計画
- ・ マテリアリティ

5つの重点テーマを
追求するとともに、
実力の底上げを確実に
進めていくことで
2027年5月期までに
目標の収益率を
目指します。



課題

- 事業横断による情報共有で提案力を強化
- 北中米拠点の経営基盤強化と収益拡大
- 外資系メーカーへの提案強化と新規商材の拡販

方針

グローバル戦略をアップデートすることで収益力向上の道筋をつけるとともに、北中米拠点における本格成長に向けた投資を進め、海外市場でのプレゼンスを高めます。

- 合成皮革の提案体制の整備とさらなる受注拡大
- シートの加飾材などオンリーワン製品の新規受注と拡販
- 技術プレゼンとデザインプレゼンによる新規顧客の発掘

市場動向

- コロナ禍や半導体不足に起因する社会経済活動悪化からの回復
- 為替の変動、原材料価格・労務費の高騰
- SDGs観点の広がり
- 中長期的な人口減少
- 次世代交通サービスMaaSの実用化など新たな需要の拡大



グローバル展開の加速



6ヵ国11拠点の自動車内装事業の海外拠点にベトナム拠点を加えることで、世界最適供給体制をより強化し、また海外でのSUMINOEブランドの認知度を高めることで外資系メーカーへの拡販につなげます。

非繊維領域の拡充



2027年5月期目標の合成皮革売上100億円は、2024年5月期で達成するに至りました。今後は、メキシコ合成皮革工場を新たな成長エンジンに加え、安定的な受注獲得と生産体制の最適化・効率化で競争力強化を進めてまいります。



課題

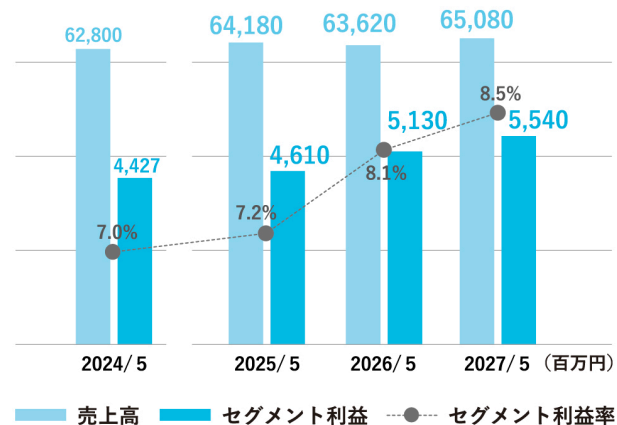
- 生産体制の最適化・効率化による収益拡大
- 機能性商材の開発と拡販による販売拡大

方針

1世紀以上にわたりトップシェアを誇るマーケットリーダーとして、伝統的な日本の文化や技術を守るとともに、技術革新にも取り組みます。

- 効率的かつ安定的な生産体制の確保
- 技術とノウハウの安全かつ適切な管理体制の構築
- 他事業との連携による新市場の創出

▶自動車・車両内装事業の3ヵ年計画



市場動向

- コロナ禍や半導体不足に起因する社会経済活動悪化からの回復
- 為替の変動、原材料価格・労務費の高騰
- SDGs観点の広がり
- 中長期的な人口減少
- 次世代交通サービスMaaSの実用化など新たな需要の拡大

インテリア事業の方針

課題

- SUMINOE ブランドの認知拡大
- 家庭用商材の販売回復に向けた戦略の実行

方針

業界の先駆者としての誇りを胸に、既存事業の収益力強化と新たな価値創造に取り組みます。

- 新たな需要の掘り起こしと他社との差別化
- 中高級ゾーンへの積極的な市場展開
- 市場変化に対応した物流効率化による販売強化
- スペース デザイン ビジネスとのシナジー創出

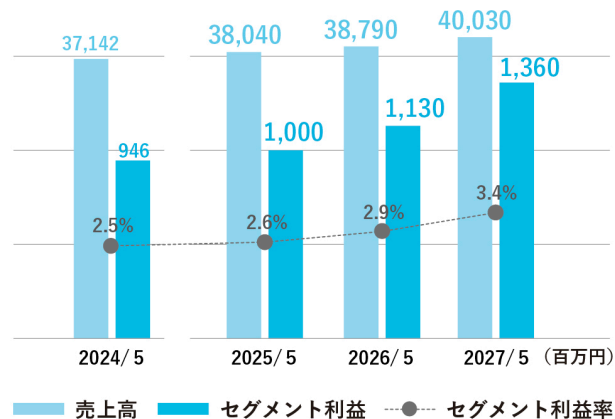
市場動向

- 外的要因による社会の変化
- コロナ禍の終息
- サプライチェーンの弱体化

- 新設住宅着工戸数の減少
- オフィスや商業施設建設の都市集中



▶ インテリア事業の3ヵ年計画



課題

- 既存事業、既存製品カテゴリからの拡大
- ベトナム拠点の人材と生産設備の有効活用

方針

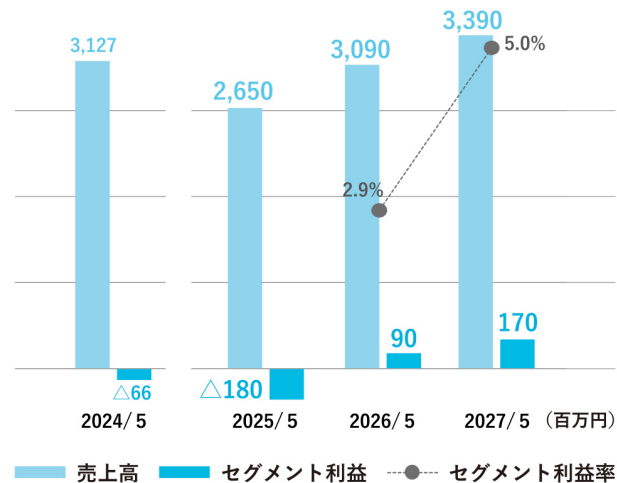
全社に展開する技術の源泉として、スマートテキスタイルなど新機能開発に取り組み、新たな成長事業の醸成を図ります。

- 社会課題や市場ニーズに即した製品開発の推進
- スマートテキスタイルなど次世代に向けた新領域への開発強化
- 他事業との連携によるベトナム拠点の運営の最適化
- 独自の素材や加工技術を応用した用途開発と他分野への進出

市場動向

- 気候変動やコロナ禍後の生活スタイル変化による消費者ニーズ・購買動向の変化
- 為替の変動、原材料価格・労務費の高騰
- SDGs観点の広がり

▶ 機能資材事業の3ヵ年計画



技術開発の方針

グループ力の強化と人材育成を基盤に、研究・技術力を強化。世の中に存在する数多くのニーズに対し、「あらゆる空間に、イノベーションを。」生み出してまいります。



強化&融合

吸着加工
技術

難燃
技術

樹脂配合
技術

加工
技術

分析評価
技術

+

NEW

新規・知財連動型のコア技術の創出

グループ力の強化

- グループ各社のコミュニケーション推進によるシナジー効果の創出
- SUMINOE GROUP全体の知的財産の見える化

人材育成

- 開発事例・データの見える化による技術および品質の共有推進
- 測定機器の動画マニュアル作成による汎用化
- 試験業務と既存開発業務、新規開発業務の再編および各従業員の育成
- 海外人材や中途のキャリア人材を積極的に採用

3ヵ年連結収支計画（1）

SGW SUMINOE GROUP WAY
2022~2024~2027

	2024/5	2025/5	2026/5	2027/5	STEP I とSTEP II 最終年の比較	
	実績	計画	計画	計画	(率)	(額)
売上高	103,478	105,300	106,000	109,000	+5.3%	+5,521
営業利益	3,300	3,300	4,200	5,000	+51.5%	+1,699
営業利益率	3.2%	3.1%	4.0%	4.6%		
経常利益	3,668	3,400	4,200	5,000	+36.3%	+1,331
親会社株主に 帰属する 当期純利益	874	1,500	2,100	2,600	+197.3%	+1,725
為替レート 1ドル	145.31	144.00	131.00	125.00		

売上高の拠点別内訳

	2024/5	2025/5	2026/5	2027/5	STEP I とSTEP II 最終年の比較	
	実績	計画	計画	計画	(率)	(額)
売上高	103,478	105,300	106,000	109,000	+5.3%	+5,521
国内	67,793	68,900	71,100	73,000	+7.7%	+5,207
北中米	18,469	18,700	17,300	18,700	+1.2%	+230
中国	8,098	8,000	7,800	7,900	△2.5%	△198
アジア	9,116	9,700	9,800	9,400	+3.1%	+282

3ヵ年連結収支計画（2）

セグメント別内訳

		2024/5	2025/5	2026/5	2027/5	STEPⅠとSTEPⅡ最終年の比較	
		実績	計画	計画	計画	(率)	(額)
(百万円)							
自動車・ 車両内装事業	売上高	62,800	64,180	63,620	65,080	+3.6%	+2,279
	セグメント利益	4,427	4,610	5,130	5,540	+25.1%	+1,112
インテリア事業	売上高	37,142	38,040	38,790	40,030	+7.8%	+2,887
	セグメント利益	946	1,000	1,130	1,360	+43.7%	+413
機能資材事業	売上高	3,127	2,650	3,090	3,390	+8.4%	+262
	セグメント利益	△66	△180	90	170	—	+236
その他	売上高	407	430	500	500	+22.7%	+92
	セグメント利益	76	90	130	170	+123.3%	+93
調整額	セグメント利益	△2,083	△2,220	△2,280	△2,240	—	△156
合計	売上高	103,478	105,300	106,000	109,000	+5.3%	+5,521
	営業利益	3,300	3,300	4,200	5,000	+51.5%	+1,699

マテリアリティ

社会的責任に関する国際規格、サステナビリティに関する国際基準から導き出した、中長期経営目標における課題をもとに、社内外のステークホルダーへのインタビューや調査を経て、マテリアリティを特定しました。

分野

マテリアリティ（重要課題）

テーマ

価値創出
収益機会



イノベーションを通して SUMINOE ブランドの社会的価値を向上させる
価値ある製品・サービスの提供

- デザイン・質感・機能性を追求し、あらゆる空間に快適な環境を提供する
- 伝統・技術の継承と発展
- 環境配慮型製品の開発・製造・販売

E

（環境）



KKR+A の開発基本理念と環境対策宣言で「地球との調和」を推進する
地球環境の保全

- 気候変動問題への対応
- 省エネルギー・高効率による生産
- 資源の効率的利用、廃棄物削減
- 環境マネジメント体制の強化
- 生物多様性の保全

S

（社会）



多様な人材が働きがいを持ち、安全・安心にイキイキと活躍できる組織風土をつくる
人材戦略

よい製品を生産し、販売し、社会の向上に貢献する
製品の安全と品質
サプライヤーと共に持続可能な社会の構築を実現する
持続可能な調達

- 人権尊重とダイバーシティ&インクルージョン
- 人材の育成・活用
- グループ理念の浸透、働きがいのある労働環境の整備
- 労働安全衛生・健康経営
- 働き方改革、ワーク・ライフ・バランス
- 製品安全・品質マネジメント
- サプライチェーン・マネジメント

G

（ガバナンス）



透明性の確保を通じて企業の信頼の基盤を構築する
ガバナンスの強化

- コーポレートガバナンスの向上
- コンプライアンスの徹底、不当競争・腐敗の防止
- リスクマネジメントの強化・事業継続の推進（BCP）
- 情報セキュリティの強化
- 適切な情報開示、ステークホルダーエンゲージメント

資本コストと株主還元

- ・方針
- ・資本コストを上回るための取り組み
- ・キャッシュ・アロケーション
- ・IR活動の充実
- ・株主の皆さまへの還元

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応

現状分析

株主資本コスト：5～7%

算出方法…

CAPMで算出、リスクフリーレート（約1.0%）+ ベータ値×
市場リスクプレミアム（約6.0%）

リスクフリーレートは国内長期金利より参照、
ベータ値は自社計算

ROE：2.9%（2024/5実績）

ROEは資本コストを下回った状態が続いており、
PBRも1倍割れの状態で継続して推移している

PBR：0.5倍（2024/5実績）

方針

ROE：8%

（2027/5目標）

PBR：1.0倍

（2027/5目標）

配当性向：38%

（2025/5より）

ROIC：8%

（2027/5目標）

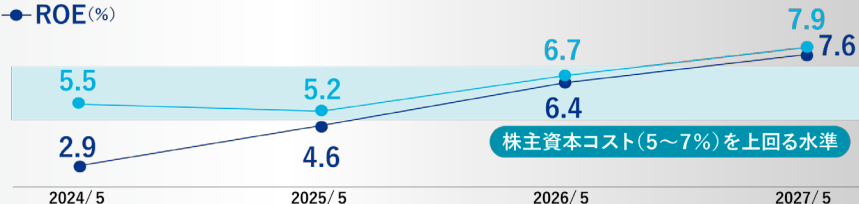
WACC：4%

（2027/5目標）

ROIC/ROEの推移

● ROIC(%)

● ROE(%)



資本コストを上回る 企業価値向上のための取り組み

市場の期待を上回る価値創造の実現を前提に、
ROE 8%以上を達成するため、
収益率の向上・資本効率の向上・
財務レバレッジの利用に徹底して取り組みます。

ROE向上のための取り組み

収益率の向上
資産の有効活用
財務レバレッジの利用

収益率の向上
経費の削減
財務体質の改善

北中米拠点の収益拡大
インテリア事業の収益率改善
現預金・借入金の適正化

在庫の適正化
固定資産の活用
内部留保の活用

在庫回転率による管理
生産設備の稼働率向上
株主還元・人的資本への投資

キャッシュ・フローの創出

営業CF

2025/5～2027/5 110億円

資産の流動化

政策保有株式の縮減
遊休資産の活用

自己株式の活用



設備投資/M&A

80億円

基幹システムの再構築

5億円

開発への投資

人的投資

株主還元

情報発信と相互対話の さらなる強化

引き続き、統合報告書やホームページのサステナビリティ活動の内容更新など、IR 関連情報の発信に積極的に取り組みます。また、IR 面談や会社説明会などの機会を増やすことで株主・投資家の皆さまとコミュニケーションを図り、当社グループへのさらなる理解と透明性の確保に努めてまいります。

IR活動によるコミュニケーションの強化

- 個人投資家・機関投資家向け説明会の回数増
- 開示資料の充実化
- 英文開示への対応
- ホームページ・SNSを活用した積極的な情報発信
- 広報活動による認知向上

株主・投資家との対話の実施状況

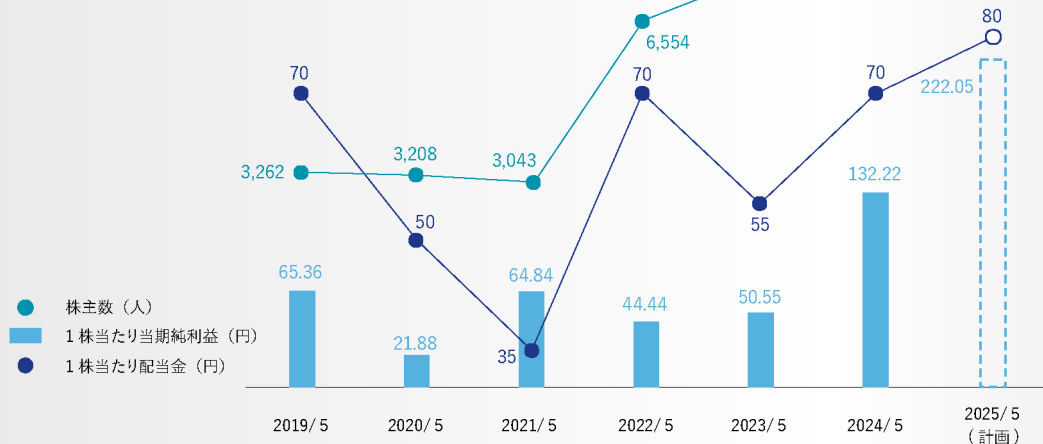
- 機関投資家・アナリスト向け決算説明会
- スモールミーティング
- 1 on 1 ミーティング
- 個人投資家向け説明会



株主の皆さまへの利益還元を重要な経営課題と考えております。

安定的な配当と業績の動向を勘案しながら、

適正な成果の配分を継続してまいります。



株主数 (人)	3,262	3,208	3,043	6,554	7,552	9,449	-
1株当たり当期純利益 (円)	65.36	21.88	64.84	44.44	50.55	132.22	222.05
1株当たり配当金 (円)	70	50	35	70	55	70	80

株主還元方針

安定した株主還元

- 01 配当時期については、中間および期末の年2回を基本とします。
- 02 急激な環境悪化など不測の事態を除き、下限70円を維持します。

継続的な還元拡充

- 03 配当性向33%から38%に引き上げます。2027/5は年間配当金140円を目指します。
- 04 自社製品を含む株主優待制度を引き続き実施します。

将来に関する記述等についてのご注意

当資料における当社の今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。